

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

「こふきと救済」

こふきのひろめシリーズ
vol.4

◆荒唐無稽な物語

「どろろみこふきは荒唐無稽である」【※1】

これは前々から紹介している『こふきの研究』にある一文だ。もちろん、二代真柱様が意図されたことではなく、当時このような受け止め方や通説が、長らく浸透してしまっていたのである。

その原因としては、一般に公開されていなかったこと、折釘流【※2】で読みにくい写本であったこと、そして当時の政府からの干渉があったことなどが挙げられる。

この誤った認識が正される契機となったのが、『復元』【※3】をはじめ、『こふきの研究』などであった。連載第4回目にして、ようやく片鱗だけではあるが、「こふき」の内容に触れていきたい。

【※1】荒唐無稽…言動に根拠がなくて、とりとめもないこと。でたらめであること

【※2】折釘流…折れ釘を並べたような、認識しづらい筆跡のことをいう

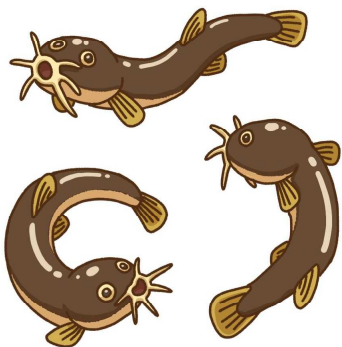
【※3】『復元』…教祖の教えの本来に立ち返るために教義及史料集成部より発行された出版物

◆こふき話の概要

「こふきを作れ」との教祖のお言葉を受け、明治14年から20年にかけて教祖の高弟たちが残した書き物は、いわゆる「こふき本（こふき話）」と呼ばれている。

その内容は年代と共に多少の違いがあるものの、『こふきの研究』においては概ね以下の通りであるとまとめられている。

- 一、この世の初まりのお話
- 二、人間身の内の御守護
- 三、いんねんとほこりの話
- 四、をびやの話
- 五、教祖
- 六、神道見立
- 七、佛教見立



等になってありまして、おつとめの意義の説明から發して、信仰するもの態度にまで及び、その節、その節のお話のあやと思われる説話にまで含まれているのであります。

『こふきの研究』154頁)

加えていうならば、冒頭の「荒唐無稽」という解釈は、おそらく第一の「この世の初まりのお話」、つまり泥海古記を主に指していると思われる。

この概要をおさえた上で私が申したいのは、「こふき」が荒唐無稽ではないことの「証明」ではなく、その「目的と生かし方」についてである。

前回、「こふきを作れ」との教祖のご指示の背景には、あえて人間に作らせるといふ教育的意図があったと述べた。つまり、取次人の養成である。ここをもう一步深掘りしていきたい。

◆人間の必要性

時代は遡り、元治元年に教祖は扇や御幣などの「さづけ」をお渡しになる。その後、明治7年に赤衣を召されるようになり、自らが

「月日のやしろ」である理を明らかに現された上で、身上たすけのための「さづけ」を渡されるようになった。

そして先述の通り、明治13～14年頃から「こふきを作れ」と、取次人の養成に着手されていく。

この一連の流れをみたとき、「こふき」の存在において教祖が期待されたのは、ただ単に「お話の取り次ぎ」に留まらないのではないか、と私は考える。

教祖ひながたの大半は、生き神様であった教祖が直接人間を救済することが主であった。しかし、この頃からお側の高弟たちが教祖の手足となり、にをいがけや人たすけを担うようになっていく。つまり、神の名代「※4」として「ひろめ・たすけ」が展開されていったのだ。その具体的な手立てとして教えられたのが「つとめ」と「さづけ」、そして「こふき」であった。

おふでさき研究の大家である故・芹澤茂先生は、著書『おふでさき通訳』にこう記している。

端的に言つて、こふきは親神が教祖を通して信者(取次・ようぼく)に仕込まれたものである。こふきを仕込み、親神のたすけのお働き(守護)を仕込み(おふでさきにも記述)、そうして神と人間と協働してたすけをしていく、というのがたすけの基本的な方針である。

『おふでさき通訳』693頁)

つまり、「こふき」はこの世の真実、根源を明らかにした話に留

まらない。その内容そのものがご守護のもとであり、人間の口を通して人たすけをしていくための手段なのだ。「こふき」を別の言葉に置き換えるのであれば「たすけの理話」といえよう。

(参考…『教理研究 元の理』深谷忠政著)



〔※4〕

名代 … ある人の代わりとして、その役目を務めること

神のゆうことわしんしつともてねかゑば、おかみきとふや、くすりのまいでも、はなしいちしよふでみなたすかること、これ しよふこなり。

(16年榊井本、『こふきの研究』139～140頁)

〔文章補足〕

神の言う事は真実と思て願えば、きとう拜み祈禱や、薬飲まいでも、話一条で皆たすかる事、これ証拠なり。

教祖140年祭後、繁藤大教会の活動方針の項目の一つに「この道は話一条、お道の話を取り次ゆえんごと」と掲げているが、その所以がここにある。

繰り返しになるが、そもそも「こふきのひろめ」と題して連載しているねらいは、荒唐無稽かどうかの証明をしたくないからではない。皆さんと共に「こふき」の位置づけそのものを見直していきたいということこそが、このシリーズの大きな目的の一つなのである。

◆話一条で皆たすかる

最後に、ここまでの文脈を最も端的に明示している、こふき本の一部を抜粋して締めくくりたい。

立教一八九九年六月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【立教百八十九年 五月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、「いちれつのごどもがかはいそれゆへにいろ／＼心つくしきるなり」
と、一れつのためすけをお急ぎ込み下さいます深い親心から、事に触れ、時に臨ん
で、だん／＼のお仕込みを賜り、妙なる自由のまに／＼陽氣ぐらしへとご連絡
通り下さいます限りない御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みに存じます。
私共は尊き親のお導きを頂いて、日々成人の道を勇んで歩ませて頂いておりま
すが、その中にも今日この日は、御教えの元一日の理を受けて、おぢばより当
教会にお許し頂いております月々の御祭日に当たりますので、只今からお役に
預かる、おとめ奉仕者のよふぼく一同、一手一つに心を合わせ、座りづとめ、て
をどりをつとめ、五月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、今日を樂
しみに寄り集った道の子供たちが、存命の理をもつて日夜世界たすけにお働さ
下されている教祖の御厚恩を心より御礼申し上げ、尚も一筋にお縫りする一
同の心をもお受け取り下さいますして、親神様にもお勇み下さいますようお願
い申し上げます。

今、世上に次々とお見せ頂く事情も、全てはお互いが日々に積み重ねてきた心
の埃によるものと悟ります時、よふぼく一層心してつとめなければならぬと
思案すると共に、大教会活動方針である「明日に希望を、今日を陽氣に」の令
言葉を胸に先永う樂しむ歩みを進めてまいる所存で御座います。何卒、世界
の陽氣ぐらしを願う誠の心に自由の御恵みを賜り、一日の早くこの世のあしき
が払われて、挙つて親神様の思召に添った眞実の道を樂しむことの出来ますよ
う御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年五月月次祭 祭典役割》

祭主	大教会長	八足出し		立花真一郎
指図方	宮田孝道			佐々木恵
扨者	為田基紀			田村省悟
扨者	空閑一将			村上由高
賛者	田村聡佐			空閑慶吾
賛者	村上由高			高橋道則
男	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半	
	大教会長	田村聡佐	立花真一郎	
	前大教会長	伊藤正福	藤田善典	
	田村辰久	佐々木恵	田村庫治	
	大教会長夫人	為田賢子	黒石美佐	
	前会長夫人	佐藤明子	田村育与	
女	黒石伸子	武市まち子	村上綾	
	宮田孝道	藤田一憲	村上由高	
地方	村上英士	川田節夫	竹下隆廣	
	空閑一教	前田豊	近藤太一	
笛	為田基紀	田村省悟	立花孝一	
チヤンポン	為田紀久男	高橋道則	坂井博文	
拍子木	藤田憲明	空閑一将	黒河明大	
太鼓	坂本久徳	土居道久	秋月英希	
すりがね	佐藤栄治	佐藤節幸	藤田慶一郎	
小鼓	田村久徳	空閑慶吾	宮田教一	
琴	佐藤順子	坂本喜子	空閑真理代	
三味線	村上美栄子	田村純代	宮田みなみ	
胡弓	佐藤文代	田村睦美	阪本喜代子	
神殿講話	藤田憲明			

【神殿講話】

(6月) 布教推進講習会

山本 一元 先生

(洲本部属 統北分教会長)

【しげとう time おかえり講話】

(6月) 黒石 伸子

テーマ「おちばがえりの喜び」

【教会長神殿当番】

(6月) 地ノ島・田久生

(7月) 北大津・繁山

【詰所教養掛】

(6月) 坂井 博文

女性坂本 好恵

【詰所事務当番】

(6月) 秋月 英希

(7月) 大西 義一

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

11月1日～15日 別府

○婦人会詰所ひのきしん

6月25日～26日 (藤広1名)

※婦人会詰所ひのきしんの募集

今月、上記以外にもう1名ひのきしん者を募集いたします。おつとめいただける方は大教会までご連絡ください。

【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】

令和8年度の各会費の納入を、左記の通りお願い致します。

・婦人会 一名称 六〇〇〇円

・少年会 一名称 六〇〇〇円

・青年会 一名称 六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取って下さい。やむを得ず詰所事務所にお預けになる場合は、詰所にて預かり証しか出せませんのでご留意下さい。

【婦人会】

○繁藤支部婦人会総会

日時 6月20日(土)

午前9時30分(受付8時30分より)

場所 繁藤大教会

内容 座りづとめ・十二下り

式典 模擬店

たくさんの方の会員と共に集い、賑やかに総会

をつとめさせていただきましょう。

※お声がけよろしくお願ひいたします。

○みちのだいおはなし会(6月)

日時 6月26日(火) 午後1時～2時

場所 陽気ホール

岡田正彦先生(天理大学教授)

「ひながたを身近に」

―教祖のゆかりの地を訪ねて―

※託児はありません

【少年会】

○こどもおちばがえり申込み方法について

こどもおちばがえりインターネット申込みに必要な「申込キー」を、各教会にはこの月報に同封いたしております。まず責任者登録をして下さい(6月20日10:00より登録可能になります)。7月1日10:00より、こどもおちばがえりオフィシャルサイトの申込フォームより申込みが出来ます。申込みが出来るのは、帰参予定人数・カレー食数になります。カレー食数には、一日の上限がありますので、上限に達した場合は申込みが出来なくなります。準備の都合上、7月20日までに一度申込みをして下さい。申込み方法の不明な点がございましたら、団長までお問い合わせ下さい。

【にをいがけチラシ】

「続・ちよつとひとこと」の新しいチラシのサンプルを、月報に同封しております。大教会の新たな活動方針の項目の一つに「まずはチラシ配り3枚から始めよう、続けよう」とあります。教会長はもちろん、信者の皆様を含め、にをいがけの実働に勇んで励ませてもらいましょう。

枚数の変更や、新たにチラシの送付を希望されます方は大教会までご連絡ください。

【初席者(4月)】

豊 養 衛藤久美子

添 田 新木まり子

繁藤カリ

CARDONA HURTADO CATALINA

【教人資格講習会】

添 田 松下剛治

繁藤カリ 筒井慶喜

6月の仕切り月

- 8日 南田川 分教会
- 14日 垣生 分教会
- 23日 北大津 分教会

5月の仕切り月

- 3日 膽 澤 分教会
- 4日 矢井賀 分教会
- 4日 紋 膽 分教会
- 4日 生 安 分教会
- 9日 藤 広 分教会
- 9日 武富士 分教会
- 10日 城 下 分教会
- 10日 博 喜 分教会
- 11日 関 守 分教会
- 12日 田久生 分教会
- 16日 孕 分教会



博喜分教会



紋膽分教会



関守分教会